

平成18年度実践的研究助成対象研究一覧

代表研究者		研究課題	助成額 (単位:万円) ()内累計	助成年度
1	梅崎 薫 (埼玉県立大学社会福祉学科助教授・他計7名)	高齢者虐待およびその養護者支援等への予防的コミュニティづくりに関する研究 <新規>	127	H18
2	川副 巧成 (社会福祉法人春秋会リエゾン長崎理学療法士・他計7名)	認知症予防と運動の関係 —筋力向上トレーニングによる運動介入と脳機能との関連性— <新規>	105	H18
3	小山 幸代 (東海大学健康科学部看護学科助教授・他計5名)	認知症高齢者のセルフケアを促進するコミュニケーションスキルの開発に関する研究 <新規>	111	H18
4	篠田 美紀 (大阪市立大学大学院生活科学研究科助教授・他計7名)	在宅軽度認知症高齢者とその家族に対する臨床心理学的援助に関する研究 <新規>	130	H18
5	中山 徹 (奈良女子大学大学院人間文化研究科助教授・他計5名)	日常生活圏域及び地域包括支援センター・地域密着型サービス等のあり方 に関するまちづくりモデルプラン作成 <新規>	125	H18
6	森 一彦 (大阪市立大学大学院生活科学研究科教授・他計3名)	虚弱高齢者の近隣外出のための「安心拠点マップ」づくり —福祉施設、自治会、商店街の地域内連携をめざして— <新規>	119	H18
7	草野 篤子 (信州大学教育学部教授・他計5名)	超高齢社会における世代間交流モデルの研究 —高齢者による児童・生徒への教育支援プログラムの開発— <継続2年目>	131 (260)	H18・17
8	坂本 俊彦 (山口県立大学附属地域共生センター助教授・他計4名)	「ふれあい・いきいきサロン」活動の評価研究 <継続2年目>	113 (225)	H18・17
9	佐藤 嘉夫 (岩手県立大学社会福祉学部教授・他計7名)	老親と他出子との家族・援助関係を土台にした地域ケアシステムの構築に関する実践的 研究—超高齢化山村における地域福祉のサブシステムの研究— <継続2年目>	86 (221)	H18・17
10	東野 定律 (国立保健医療科学院福祉サービス部研究員・他計7名)	認知症高齢者の家族介護者にかかる介護負担感を軽減するための 福祉用具サービスの開発とその効果に関する研究 <継続2年目>	110 (230)	H18・17
11	前田 潔 (神戸大学大学院医学系研究科教授・他計4名)	認知症等の高齢者を対象とした音楽療法の効果に関する実践研究 <継続2年目>	120 (240)	H18・17

12	松田 千登勢 (大阪府立大学看護学部講師・他計4名)	認知症高齢者と家族の在宅生活を支える短期入所ケアに関する研究 —「在宅継続生活チャート」の開発— <継続2年目>	108 (230)	H18・17
13	右田 玲子 (筑波大学人間総合科学研究科研究員・他計5名)	高齢者の自立生活継続を支援する環境システムの構築に関する研究 —高齢者住宅居住者と生活援助員に対する調査分析を通して— <継続2年目>	112 (230)	H18・17
14	横井 和美 (滋賀県立大学人間看護学部講師・他計8名)	地域の高齢者生涯学習事業につながる健康教育活動としての 認知症予防プログラム開発に関する研究 <継続2年目>	103 (246)	H18・17
	合 計	14 件	1,600	